

産婦人科

一般目標（G I O）

正常妊娠経過の管理、妊娠中の合併症についての基本的知識を習得する。女性生殖器の疾患について、女性のライフスタイルとの関連性も併せて理解する。

行動目標（S B O s）

1. 産科

- ① 患者との医療面接では主訴、月経歴、妊娠歴、既往歴、現病歴を簡潔的にまとめることができる。
- ② 妊婦健診の実際を理解し、母子手帳の役割や公費負担制度について習得する。
- ③ 妊婦の超音波検査で胎位・胎向・胎児の推定体重・胎盤の位置が診断できる。
- ④ 妊娠による全身変化および臨床検査値の変動について述べるができる。
- ⑤ 分娩監視装置（NST・CTG）による胎児機能の評価について習得する。
- ⑥ 分娩機転を理解する。
- ⑦ 新生児の基本的診察を習得する。
- ⑧ 産褥期の全身的な変化を理解する。

2. 婦人科

- ① 双合診と腔鏡の基本的な使い方を習得し、膣内の異常の有無を確認できる。
- ② CT, MRI, US など画像診断で内性器の所見を述べるができる。
- ③ 性感染症について理解し、診断法と対処法を述べるができる。
- ④ 骨盤内臓器の解剖、婦人科術式を理解する。
- ⑤ 婦人科良性腫瘍の症状・診断について述べることができ、ライフプランを考慮した治療法を列挙することができる。
- ⑥ 婦人科悪性腫瘍の診断と治療について習得する。
- ⑦ 更年期・閉経後婦人の生理的变化について習得する。

方略（L S）

1. オリエンテーション

産婦人科診療の特徴は問診などで患者のプライバシーに深く立ち入ることが多く、内診では患者が少なからず羞恥心を抱くことです。よって患者から得た情報は、プライバシー保護の観点から守秘義務に留意するとともに、診療に当たっては言葉遣い、身なりに気をつけ、不快感を与えない態度が必要です。

2. 外来研修

- ① 指導医の外来を見学し、指導のもと患者の問診・身体診察・検査・治療計画立案に参加する。
- ② 指導医とともに妊婦健康診査を行う。

3. 病棟研修

- ① 指導医とともに病棟回診を行い、カルテを記載する。
- ② 指導医とともに患者を受け持ち、診療を行い、サマリーを記載する。
- ③ できるだけ多くの分娩に立ち会い、CTGの評価、分娩機転、分娩介助について学ぶ。
- ④ 子宮内容除去術・羊水穿刺などの産科処置を見学する。

4. 救急研修

上級医とともに急性腹症患者を診察し、検査計画の立案、治療計画の立案に参加する。

5. 手術
できるだけ多くの手術に助手として参加し、骨盤内臓器の解剖と術式を学ぶ。
6. その他
 - ① 産婦人科に関する英語論文を読み、抄読会で発表する。
 - ② カンファレンスで自分の受け持ち患者についてプレゼンテーションを行い、議論に参加する。
7. 自主学習
 - ① 図書館の書籍、インターネット、DVDも活用して知識（ガイドラインなど）、手技、態度を学ぶ。
 - ② スキルラボにて手技の習得を行う。

評価（E v）

1. 評価は、観察記録とし、研修医および指導医が1か月毎に、プログラム全体の評価票 I-Ⅲと、産婦人科専用の評価票にて行う。
2. 妊娠・出産についてはサマリー等を事務局に提出。

研修スケジュール

| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
|---|----------|----|----------|----|-----------|----|----------|-----------------|----|----|
| 月 | ← 病棟回診 → | | ← 外来見学 → | | ← 病棟処置 → | | | ← 抄読会 症例検討 → | | |
| 火 | ← 病棟回診 → | | ← 手術 → | | ← 手術、麻酔 → | | | | | |
| 水 | ← 病棟回診 → | | ← 手術 → | | ← 手術、麻酔 → | | | | | |
| 木 | ← 病棟回診 → | | ← 外来見学 → | | ← 手術、麻酔 → | | | | | |
| 金 | ← 病棟回診 → | | ← 外来見学 → | | ← 外来処置 → | | ← 母親教室 → | | | |